

年度 内容	令和7年度 成果と課題	目標	令和8年度 目標達成に向けた取組
学校全体	<p>○校内研究を核とした教職員の授業改善を推進した。それにより、既習を生かして学ぼうとする児童が育ってきた。中学年以上では、国語科「読むこと」の力が向上した。算数少人数におけるC,D層の指導改善、日常的なベータック取組の改善により、基礎基本の内容が身に付き、学力が底上げされてきた。</p> <p>△国語・算数ともに、身に付けた資質・能力を活用する力において、二極化の傾向が強い。生きてはたらく学力が育つように、教材内容の理解に留まらず、深い学びを実現するための授業改善が課題である。</p>	<p>○校内研究を核として、国語科説明的文章を中心に授業改善を進めることで、学習者主体の深い学びを実現し、生きてはたらく学力を育てる。</p> <p>○習熟度別算数少人数指導では、学力層に合わせて、基礎基本の定着と活用力の向上を図る。</p> <p>○日常の取組を通して、授業での学びを支えるために必要な、基礎的な四則計算の力や語彙力等を育てる。</p>	<p>・「自ら考え、学び合う力」を目指し、年間6回の研究授業と毎週の教材研究日を通して、学年や教科担任で組織的に授業改善に取り組む。</p> <p>・各教科での学習のほめは、教師が示すのではなく、自分の言葉で書くようにする。</p> <p>・算数少人数指導では、教材研究日等を生かし、単元の進行や軽重・難度を習熟度別に変更して計画する。</p> <p>・ベータックコアで各学年・単元までの四則計算を確実に定着させるようにする。よむYOMUワークシートでは、中学年で慣れ、高学年で考えをもち広げること積み重ね、段階的に読解力の向上を図る。</p> <p>・総合的な学習の時間では、他の取組を通して身に付けた力や、読書科で習得した探究スキルを生かし、「マイ探究」「グループ探究」「プロジェクト型探究」の枠で、主体的に他者と関わりながら問題解決に向かう力を育てる。</p> <p>・「船二式家庭学習」を定期的に活用しながら、毎月第2週の「Study week」を通して各家庭と協力し、児童が自律的に家庭学習する力を育てる。</p>
第1学年	<p>○「読むこと」の領域において、登場人物の行動と会話を自分で見つけ、叙述をもとに気持ちや想像することができた。</p> <p>△既習の漢字を書くことはできるが、国語だけではなく他教科においても適切に使用することに課題がある。</p> <p>○「数と計算」領域において、たし算とひき算の技能がおおむね身に付いた。</p> <p>△国語・算数ともに、応用問題や記述式問題において問われていることを正しく理解できない児童がいる。</p>	<p>○文章の「問い」「答え」を捉えて読むことができる。</p> <p>○全員がたし算、ひき算をできる。上位層は、自分の考えを説明することができる。</p> <p>○ひらがなを使って文を書くことができる。家庭学習の習慣を身に付ける。</p>	<p>○1学期は、毎日の音読を通して、言葉や文を正しく読めるようにする。第2教材以降は、「問い」に対する「答え」を児童が自ら探して読めるような授業改善を行う。</p> <p>○1学期は、授業やベータックの取組により、5や10の構成を毎日繰り返し唱え、全員に定着させる。2学期以降は、習熟度別算数を実施し、数の構成を生かしてくり上がり・くり下がり計算をできるようにする。上位層では、ブロックやアレイ図などを用いて立式や計算の仕方を説明する活動を取り入れる。</p> <p>○1学期は、正しい姿勢や筆運で、まず目に丁寧に書けるようにする。7月以降は、毎週末の「あのね帳」を通して、ひらがなを使って文を書く力を育てる。保護者に家庭学習の方法を明示して、9割以上の児童が毎日20分以上学習できるようにする。</p>
第2学年	<p>○「読むこと」の領域について、人物の行動と会話に着目して様子を想像することができた。順序を表す言葉を理解し、教科をまたいで横断的に活用できた。</p> <p>△「書くこと」の領域について、習得した漢字を日常的に使用することを忘れていた。</p> <p>○九九はおおむねの児童が習得した。基礎基本の四則演算の技能は、大半の児童は習得した。</p> <p>△単位換算の計算が課題。繰り上がり、繰り下がり等の基礎基本の計算の技能は、一部の児童に課題が残る。計算はできるが、計算式の説明ができない児童が多い。</p>	<p>○順序に気を付けて読んだり説明したりすることができる。</p> <p>○全員がたし算、ひき算の筆算と、かけ算九九をできる。上位層は、自分の考えを説明することができる。</p> <p>○かたかなや学習した漢字を使って文を書くことができる。家庭学習の習慣を身に付ける。</p>	<p>○第1教材では、時間の順序に気を付けて読む力を育てる。2学期は、「書くこと」「話す・聞くこと」において、順序に気を付けて伝える力を育てる。</p> <p>○1学期、未習の段階からかけ算九九を唱え、2学期終了までに全員に定着させる。ベータックの取組を通して、基礎的なくり上がり・くり下がり計算をできるようにする。長さの単元では、ものさして長さや測定する活動を繰り返し設定し、技能を定着させる。年間を通して習熟度別算数を実施する。上位層では、図や取り表などを用いて立式や計算の仕方を説明する活動を取り入れる。</p> <p>○1年生で学習した漢字のカードを配布し、いつでも見られるようにする。毎週末の日記を通して、漢字などを使いながら経験したことを書く力を育てる。</p>
第3学年	<p>○漢字の読み書きの力、文学的文章において登場人物の心情を想像する力が身に付いた。</p> <p>△「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」「説明的文章」単元において、反対の意味の言葉、主語と述語の関係、説明的文章の内容把握に課題があった。</p> <p>△「数と計算」領域において、繰り上がり・繰り下がりのある筆算やかけ算の性質の技能が一部の児童に身に付いていない。また、「活用」問題において考えを説明する力には、二極化の傾向があった。</p>	<p>○段落の役割や関係に気を付けて読み、段落の中心(要点)を捉えることができる。</p> <p>○全員がたし算・ひき算・かけ算の筆算と、基本的なわり算をできる。上位層は、学習したことを活用して問題解決をできる。</p> <p>○語彙を豊かにし、学習した言葉や漢字を使うことができる。家庭学習では、自分に合った学習方法を考えて取り組むことができる。</p>	<p>○第1、第2教材では、「問い」や話題を基に、筆者がどんな事例で説明しているか、段落の中心を考えて読む力を育てる。2学期は、「書くこと」の領域において、段落を分け、事例を用いて説明する力を育てる。</p> <p>○習熟度が低い層には、導入での問題練習やベータックの取組を通して、かけ算九九など基礎的な計算を確実にできるようにする。コンパスや分度器の扱い方を繰り返し練習して身に付けさせる。上位層には、基本的な内容を単元前半で確認し、単元後半で「Item」の発展問題に取り組む時間を設定する。</p> <p>○4月に国語読書の扱い方を指導し、練習書きや助言を通して日常的な使用を促す。2年生までで学習した漢字のカードを配布し、いつでも見られるようにする。よむYOMUワークシートでは、初めて読む記事について簡単な問題に取り組む。家庭での漢字学習は、一律の方法で出さず、書き取り・言葉集・短作文などから自分に合った取り組み方を選んで学習できるようにする。</p>
第4学年	<p>○「読むこと」領域において、説明的文章の段落の役割を捉える力や、段落の要点を捉える力が身に付いた。</p> <p>○「数と計算」単元における知識・技能が身に付いた。</p> <p>△国語では文の空欄に合う内容を書く問題、算数では円の半径を使って長さや求める問題など、「記述式問題」「活用」における思考・判断・表現の力には、二極化の傾向があった。</p>	<p>○筆者の考えと理由・事例との関係に気を付けて読み、目的に応じて文章を要約することができる。</p> <p>○全員が四則計算の筆算をできる。上位層は、学習したことを生かして応用問題ができる。</p> <p>○初めて読む文章の内容を大まかに捉えることができる。家庭学習では、自分に合った学習方法を考えて取り組むことができる。</p>	<p>○第1教材では、考えと理由・事例などの段落の役割に気を付けて読む力を育て、それを生かして、第2教材では各段落の中心を基に要約する力を育てる。2学期の「書くこと」では、自分の考えについて、理由となる事例をあげて説明する力を育てる。</p> <p>○習熟度が低い層には、導入での問題練習やベータックの取組、「EDOスク」を通して、1学期でかけ算九九や基礎的なわり算を確実にできるようにする。上位層には、基本的な内容を単元前半で確認し、単元後半で「Item」の発展問題に取り組む時間を設定する。</p> <p>○毎週のよむYOMUワークシートでは、初めて読む記事についての問題を解いたり、内容を要約したりする。家庭での漢字学習は、一律の方法で出さず、どの漢字を練習するか考え、書き取り・言葉集・短作文など、自分に合った取り組み方や内容を考えて学習できるようにする。</p>
第5学年	<p>○「読むこと」領域において、説明的文章の段落の役割を捉える力や、文章の要旨を捉える力が身に付いた。</p> <p>○「数と計算」領域において、小数や分数の計算や概数などの知識・技能が概ね身に付いた。</p> <p>△要約した文の空欄に入る言葉を考えたり、文章の構成の工夫を考えたりする思考・判断・表現の力には、多くの児童に課題があった。</p> <p>△計算の技能について、一部の児童に課題がある。また、応用問題における思考・判断・表現の力には、二極化の傾向があった。</p>	<p>○文章全体の構成を基にして、要旨を捉えることができる。また、資料の効果を考え文章を読んだり自分の考えを説明したりすることができる。</p> <p>○全員が小数の基本的な四則計算を筆算ですることができる。上位層は、学習したことを生かして応用問題ができる。</p> <p>○初めて読む文章の内容を要約したり、学んだことをまとめたりする力を付ける。家庭学習では、自分で学習内容や方法を計画して取り組むことができる。</p>	<p>○第1教材では、筆者の考えの中心がどこに表れているかを気を付けて読み、要旨を捉える力を育てる。第2教材では、説明において資料がもたらす効果を考える。2学期の「書くこと」では、自分の考えについて、資料を根拠に理由をあげて説明する力を育てる。</p> <p>○習熟度が低い層には、導入での問題練習やベータックの取組、「EDOスク」を通して、1学期で整数や小数のかけ算・わり算の筆算を確実にできるようにする。上位層には、基本的な内容を単元前半で確認し、単元後半で「Item」の発展問題に取り組む時間を設定する。</p> <p>○よむYOMUワークシートでは、初めて読む記事について家庭学習などで要約する学習を積み重ねる。毎日の家庭学習は、一律の方法で出さず、担任が毎日出す課題と、児童が自ら考えて取り組む課題を組み合わせてられるようにする。「船二式家庭学習」を配布し、課題設定に参照できるようにする。</p>
第6学年	<p>○「読むこと」領域において、原因と結果の関係の捉える力、文章を読んで要旨を把握する力が身に付いた。</p> <p>○「変化と関係」「図形」領域における知識・技能の理解が特に深まった。</p> <p>△「書くこと」領域において、特に文章のまとめの空欄に入る言葉を考える力、文章構成の効果を考える力が一部の児童に身に付いていない。</p> <p>△式の定数と変数がそれぞれ何を表しているか理解したり、図形の性質を基に長さや角度を説明したり、思考・判断・表現の力が身に付いていない児童が多い。</p>	<p>○文章全体の構成を基にして、その良さや筆者の論の進め方について考えることができる。</p> <p>○全員が小数や分数の基本的な四則計算をすることができる。上位層は、学習したことを生かして応用問題ができる。</p> <p>○初めて読む文章に対して考えをもち、交流を通して広げたり深めたりすることができる。家庭学習では、自分で学習内容や方法を計画して取り組むことができる。</p>	<p>○第1教材では、筆者の主張と事例の関係に気を付けて読み、文章構成や筆者の意図を捉える力を育てる。第2教材では、考えを効果的に伝える筆者の工夫について考える力を育てる。2学期の「書くこと」「話す・聞くこと」では、自分の考えを効果的に伝える力を育てる。</p> <p>○習熟度が低い層には、導入での問題練習やベータックの取組、「EDOスク」を通して、1学期で小数や分数の基本的な計算を確実にできるようにする。上位層には、基本的な内容を単元前半で確認し、単元後半で「Item」の発展問題に取り組む時間を設定する。</p> <p>○よむYOMUワークシートでは、初めて読む記事について、家庭学習で要旨を捉えて自分の考えを書く活動を積み重ねる。毎週の活動で考えを交流し、広げること、読解力の向上を図る。毎日の家庭学習は、一律の方法で出さず、担任が自ら考えて取り組む課題を組み合わせる計画でできるようにする。「船二式家庭学習」を配布し、課題設定に参照できるようにする。</p>